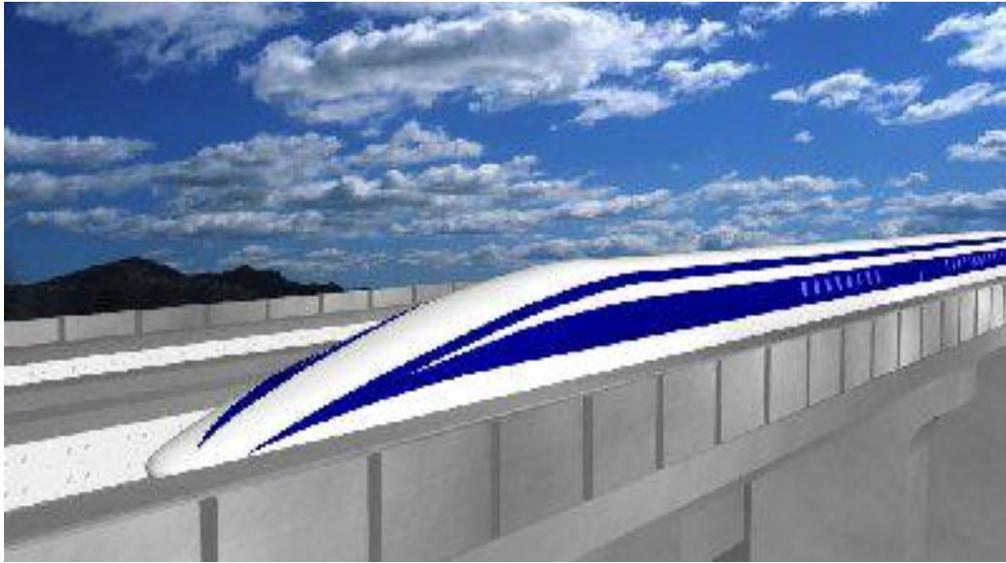


東交大同窓会会報

第22号

平成十年三月八日
 東京交通短期大学同窓会
 発行責任者 白井仁三
 編集責任者 川島一郎



超電導リニアのイメージ（（財）鉄道総合研究所ホームページより）

ついに五五〇キロ達成！

同窓会長 白井仁三



リニア実験線
 でついに五五〇
 キロ達成！新年
 あけましておめ
 でとうございま
 す。同窓会員の

みなさまが、お元気で越年されたことを
 お慶び申し上げます。昨年は、バブル崩
 壊のつけによる、銀行、証券会社等の倒
 産。一連の金融不安による景気の低迷で
 暗いニュースばかりの一年でした。

今年こそ明るい、活力のある一年になつ
 てほしいと願っています。そんな中で
 「日本が近くなる日が、時速五〇〇キロ
 で近づいてくる！」と期待される、山梨
 リニア実験線の先行区間（都留市 大月
 市、一八、四キロ）の走行試験で、つい
 に五五〇キロを達成した。目標最高速度
 を、十二月二十四日午後零時七分と同三

十七分に達成した。このニュース私ども
 運輸関連のもの、のみならず大勢の国民
 に明るいうニュースとして伝わったと思う。

私は山梨県の富士吉田市に住いし、実
 験線の「先行区間」都留市の実験セン
 ターは目と鼻の位置にあり、加えて現在
 お手伝いする、通産大臣を勤める堀内光
 雄衆議院議員が、リニア中央エクスプレ
 ス建設促進議員連盟の副会長をしている
 こともあって、このたびの世界新記録の
 快挙に大きな拍手をして喜んだ。昨年四
 月三日の本格的走行試験開始式に参列し
 カウントダウンの中で、時の古賀運輸大
 臣が始動ボタンを押して、あのアヒルの
 嘴をした夢の車両の始動を見てから九ヶ
 月、この感動はひとしおであった。

本格的な始動から、実用化への目標で
 ある設計最高速度を、立派にクリアし
 たJR東海、JR総研の技術陣は、記者
 会見で「時速五〇〇キロの営業運転への
 余力が確認できた。実用化に向け大きな
 成果だ」と頼もしい発表をした。今後、
 同実験線では、昨年十一月に運び込まれ
 た第二編成車両を使い、高速すれ違い運
 転、連結車両による走行実験などが行わ
 れることである。

一月二十日には、東京でリニア中央エ
 クスプレス建設促進期成同盟会が開かれ
 第五次全国総合開発計画に、整備推進を

明記する議決も採択された、と報道された。このように、地元山梨県の天野知事さんを始め、沿線九府県の知事さん達も、山梨実験線の全線建設と、中央エクスプレスの早期実現を要望している。堀内光雄通産大臣は、新年の経済団体の会合で「コストを下げ採算性を持たせるための技術的進歩を推進させ実用化を目指す」と、リニア事業を力強く推進する発言をされた。新年早々、夢の実現に一歩近づくと嬉しい話である。

(富士急トラベル(株)取締役会長)

ご挨拶

学長 増井 健一



最初に、東交大のことを常に心に掛けてくださった、前学長の今井則義先生が、昨年四月亡くなられました。誠に残念なことでした。没年七十八才。心からお悔やみ申し上げます。

次に、待望の東交大の校舎増築も昨年完成して、学生ホール、図書室、サーク

ル室などが実現しました。手狭なことは変わりませんが、休憩時の居場所が出来、勉強の環境も改善されました。卒業生の方々も池袋に来られる機会があったら、是非東交大まで足を延ばして現役学生諸君の顔を見、新しい設備を覗いてみてください。設備の充実には、卒業生諸君の寄付して下さったお金も貢献しています。大いばりで眺めてください。図書室には、関根先生御寄贈のモノの鉄道の絵も架かっています。

この三月卒業予定の学生諸君は、就職に頑張っています。不況下苦戦なので、先輩諸君もアドバイス、助力をして下さると誠にありがたい。後輩の力強い味方になってください。

この十月七日には、豊昭学園創立七十年の行事が行なわれるとのこと。高校の方では、これを機会に男女共学化や校舎の大改築が計画されていますが、東交大では校舎の増築が一応終わったので、これからは中味の充実に全力を挙げるともります。

さて諸君。諸君は、これから東交大がどのような方面の充実を図るのが一番良いと考えますか。これまでのように、鉄道重点の教育をしていくのがよいか。観光や物流の方にも力を入れていくべきか。一般教養をしっかりと教えるべきか、

各種資格取得をもっと奨励すべきか。賢明なアドバイスを期待しています。

最近書いてますか

学科長 鈴木 順一

フィルムでも印画紙でも光に応じて画像を記録します。しかし、それを現像しなければ目に見えませんが、現像液につけて少し時間がたつと、そこに画像が現れてきます。しかし、それを適当なところで停止させて「定着」しないと、画像は黒くなって消えてしまいます。

人から話を聞いたたり、本を読んだりして受ける印象は、すべて大脳に記録される潜在画像です。記憶力のいい間はそれをいつまでも再現出来ますが、それを「現像」し、「定着」させる作業をしておかないと、いつの間にか記憶は失せて、思い出すことも出来なくなります。その現像定着が「ものを書く」ことです。

古くから人は「日記」と「手紙」という手段で日常それをやってきました。しかし現代ではよほどの物好きでないと日記を書きませんし、手紙はすべて電話で済ませてしまいます。このことが私たち

平成10年度 特別教養講座カリキュラム

前期(土) 6:25~7:40

(敬称略)

開講日	講演者		テーマ
4月11日	鈴木 博	流通経済大学教授	ホスピタリティ産業におけるサービスの基本理念
4月18日	野間 恒	交通研究家	これからの日本の物流
4月25日	大山 茂夫	大学朝日人の会常任理事	マーケティングの世界
5月2日	齋藤 順治	JR東日本(株)東京地域本社人事担当課長	JR東日本の現状と採用の状況
5月9日	野尻 俊明	流通経済大学教授	米国の貨物輸送の展開
5月16日	青木 真美	運輸調査局主任研究員	社会の高齢化と交通
5月23日	石田 宏之	(株)日通総研経済研究部主席研究員	トラック輸送産業の特徴と今後の展開
5月30日	沢 和哉	交通史研究会	鉄道員総裁・後藤新平の経営理念について
6月6日	伊集院憲弘	(株)日本航空文化事業センター取締役	顧客満足の原点は“自分が仕事を楽しむこと”
6月13日	川上 高昌	水戸短期大学講師	物流の管理と人材教育の一考察
6月20日	伊野 琢彦	山梨学院大学講師	最近の少年犯罪と少年法
6月27日	滝吉 広亨	JR貨物(株)取締役	JR貨物は再生できるか
7月4日	南谷 誠	(株)アクト・イン・ワークス社長	くらしと情報
7月11日	森野邊大作	(株)全日警取締役社長	海外から見た日本経済

後期(土) 6:25~7:40

開講日	講演者		テーマ
9月19日	藤井 秀登	明治大学助手	関一と都市交通
9月26日	川島 一郎	JR東日本(株)上野車掌区区長	いま、JR東日本の現業機関では!
10月17日	水谷 正大	東京情報大学助教授	コンピュータ利用の将来
10月24日	小野寺理文	職業能力開発大学校講師	光通信について
10月31日	花山 英治	電気通信大学講師	移動体と無線通信
11月7日	中川 浩一	流通経済大学教授	地下鉄の発達史
11月21日	臼井 仁三	富士急トラベル(株)取締役会長	社会人としての心構えについて
11月28日	数野 昌三	産能短期大学講師	製造物責任法について
12月5日	山田 徳彦	白鷗大学講師	山形・秋田新幹線の意義
1月9日	増井 健一	本学学長	(未定)

特別教養講座は公開講座です。特に卒業生のみなさんは無料で聴講できます。
事前に短大事務局へお問い合わせの上ぜひお越しください。

平成10年度 時間割表(案)

1 年次					2 年次				
第1時限	第2時限	第3時限	第4時限		第1時限	第2時限	第3時限	第4時限	第5時限
2:20	3:40	5:00	6:25		2:20	3:40	5:00	6:25	7:45
ドイツ語 (大久保)	経営総論 (吉田)	交通関係 法規 (松岡)	法学 (渡邊)	月		経営情報 論 (神谷)	鉄道史 ゼミ (福住)	交通判例 分析ゼミ (松岡)	民法法 ゼミ (渡邊)
旅行業務論 実習 (福地)	海外旅行 実務論 (勝岡)	体育実技 (菊池)			欧米文化 論ゼミ (沼田)				
歴史学 (安彦)	統計学 (岡本)	交通経済学 (上遠野)	簿記論 (佐藤良)	火	現代世界 経済論 (宮本)	原書講読 (福住)	国際観光 論 (中山)	自動車 交通論 (上遠野)	
交通史 (福住)	(前期) 旅行業務論 実習 (中山)	(前期) 交通総論 (後期) 一般教養講座 (鈴木)				経営管理 論 (安彦)		交通政策 論 (植村)	
観光地理 (市川)	経営経済学 (亀川)	交通経営学 (秋山)	簿記論 (佐藤良)	水		観光地理 研究ゼミ (市川)	基礎経済 学ゼミ (亀川)	地域交通 論ゼミ (秋山)	
英語 (沼田)		心理学 (兼高)			鉄道運転 論(山本)	海運論 (山岸)			
哲学 (篠原)	観光事業論 (小池)	環境科学 概論 (中村)	コンピュータ 実習 (小坂)	木	サービス 産業論 (小池)	経営法学 (松岡)	コンピュ ータ実習 (小坂)	宿泊事業 論 (石隈)	
自然科学 概論 (佐藤信)		環境科学 概論 (中村)	コンピュータ 実習 (小坂)			都市交通 論ゼミ (鈴木)	(前期) 産業動向論 (後期) 鉄道論 (鈴木)		
(前期) 旅行業務論 実習 (中山)	観光総論 (井上)	(前期) 観光関係法規 (藤原)		金		現代政治 論 (関根)	観光事業 会計 (井上)	航空論 (松下)	
	保健体育論 (坂口)	仏語 (芹澤)	文学 (芹澤)						
英語 (沼田)	鉄道工学 (山本)	交通工学 (樋口)	特別教養 講座	土	物的流通 論 (山野邊)	英語 (沼田)	社会政策 研究ゼミ (長谷川)	旅行論 ゼミ (藤原)	
	経済学 (長谷川)	中国語 (謝黄)							

の物の考え方を浅薄にしている大きな理由です。

しかし、ここへきて現代人に「ものを書く」機会と必要を生み出す大転換期が始まりました。「電子メール」の登場です。電話と同じに世界中の誰とでもやりとりできる上、電話と違って時間にとらわれずに文字情報が交換できます。「ホームページ」に載せておけば、自分の書いたものを日本中の人が読んでくれる、新しいメディアが生まれたのです。交通短大の「ホームページ」(開設準備中)を開けて見れば、我々が今、どんなことを社会に向けて発信しようとしているのか、すぐわかってもらえます。

短大生は課題、宿題、卒論で毎日否応なしに書かされていますが、社会人になつたら自分で書き続けていくことが必要です。

短大の近況について

教務局長 松岡弘樹

本年度も教務局より、短大の近況についてご報告させていただきます。
一、入学状況について

平成一〇年度の入試につきましては、一月の時点で推薦入試を終了し、八十六名の合格者（受験者数九十一名）ができています。一般入試の応募の締め切りは一月末ですが、最終的には昨年度の受験者数をかなり割り込む見通しです。短大としてもここ数年学生募集等の見直しを行ってきておりますが、少子化の影響はいかんともしがたく、他大学同様厳しい状況にあります。

二、新・退任教員

平成九年度は、関根副学長の退任に伴い（講義は引き続きご担当されます）、非常勤教員で英語をご担当いただいた沼田憲治先生が、新たに専任教員として勤務されることになりました。

沼田先生はまだ三十代前半の若い先生であり、本学の大きな戦力として期待されます。

三、学校行事

平成九年度は、四月にオリエンテーション、五月に昨年と同じく学外レクリエーションとして、ハタスポーツプラザでボウリング大会を行った後、東武バンケットホールで懇親会、六月に交通見学会（リニアモーターカー実験センター見学）、七月に短大説明会、九月に東交祭、十一月に交通見学会（羽田空港整備工場見学）、十二月にゼミナール発表会を実施

し、各行事とも事故等もなく無事に終了いたしました。

四、時間割

平成十年度の時間割（案）、特別教養講座の日程が別紙のごとく決まりました。

以上、簡単にご報告させていただきました。前に述べましたように特に昨年度から今年にかけて受験希望者の著しい減少が見られます。依然として就職関係も氷河期にあり、短大も非常に厳しい局面を迎えています。これに対して短大としてもいろいろな対策を講じておりますが、特に入学・就職等への同窓会員の皆様にさらなるご協力をお願いする次第です。また短大へも東交祭・特別教養講座に限らず、どうかお気軽にお立ち寄りください。教職員一同お待ちしております。

在校生の進路拡大に協力を！

同窓会事務局

東交大卒業生として鉄道を始め社会人として活躍しておられること存じます。東京交通短期大学の存在も広く周知され、評価されるようになりました。

以前は勤労学生として昼間は勤め、夜間に東交大へ駆けつけて勉強していま

た。しかし、十数年前から大きく変化し、現在は全員が純粹の学生またはアルバイトをしながらの学生であり、卒業時に求職活動しております。

今年の就職状況は、JR東日本内定の十七名を筆頭に鉄道会社へ二十五名、一般会社へ三十二名が内定しております。しかし、合計五十七名で内定率四十八％に過ぎません（一月末現在）。進学やその後内定する者を除いても、約四〇％が職に就けないまま卒業しております。

一学年の学生数が一二〇名になった平成元年度以降の就職状況は、ほぼ同様な状況で推移しています。学長を筆頭に就職委員会も開催し、内定率の向上に努力しておりますが、第一希望は鉄道という学生が多く、JR・私鉄等の結果が出てから他の就職口を探すとすると、出遅れてしまうことも影響しているようです。

今年も同窓生からの求人紹介で、鉄道以外の会社へ内定した学生も複数いた、何年か定期的に求人（内定）をいただいている先輩紹介の会社もあります。

卒業生の皆で東交大就職委員会へ情報を知らせ、採用内定チャンネルを作っておげましょう！少しでも温かい手をさしおべてあげましょう！

期待される若い後輩への支援をお願いいたします。

会員解放区

言は易く行は難し

第三回生 鈴木靖男

今日の時代は、ある意味で言葉の時代と言っても良いかもしれない。朝、目が覚めてテレビのスイッチをひねると、ニュースあり、対談あり、歌あり、そしてコマーシャルは同じ言葉を何回も繰り返してアピールしている。

そのような中で「現代は大きな声は聞けるが、意味ある声が聞こえない」とか、「にぎやかそうな声は聞こえるが、心のよりどころになる言葉に出会えない」と言われている。要は、その言葉に本当の責任が担われているかどうかが問われている。どんなに声が大きくても、にぎやかでも、浮ついた言葉や、嘘の言葉ほど空虚なことはない。

言っていることと、現実との落差のあるのは、致し方ないことなのだろうか。幸福論を説くもの必ずしも幸福になっっているわけではなく、夫婦愛を言うもの必ずしも夫婦円満とも限らないし、経済学

者必ずしも財産家ではないようなものである。まことに、言は易く行は難しと言わなければならない。

このようなことを考えようとするとき思い出す言葉がある。それは沈黙の言葉である。人間思ったこと、学んだこと、聞いたことをすぐ演説したり、他人を説き伏せるときに使いがちである。しかし、それを一度沈黙の中に沈潜させることが必要である。すなわち、借り物ではなく自信のものにするというか、本当にうなずいて身につけるといっつか、そのときがなければならぬのである。どれほど深い沈黙を持ち得るかと言うことが、その人の思想の深さと、言行一致への人間性の豊かさを持ち得るかと言つことになる。

確かに、人間が人間に文化を伝えるただ一つの手だては「言葉」である。言い換えれば「言葉」を持つのは人間だけであり、それだけにその言葉は、ある意味で矛盾的な仕組みを持っていることを知っておかなければならない。本当のことを本当のままに、すなわち如実に言葉で表現することは、厳密に言えば不可能なものをあえて表現しているからである。よく「心を込めて申し上げます」などと言うけれど、その心たるや危ないものと言わざるを得ない。

音とか、声とか、文字は心理そのもの

の現れであり、人間の感覚を通して心理とふれてゆくという、そこに人間の歩み行いがあるといえるのであつて、歩む人生には外と内の相応する世界、言葉と実践の一致する世界を問いつけるエネルギーがある。それにしても「言は易く行は難し」のこの言葉を忘れず、一歩一歩と歩み続けたいものである。

還暦を過ぎて思う

第五回生 篠崎 正人



人生、誕生の時と死ぬ時は、暦と場所を選べないと言つ。宿命とも言ふべきか。

私は今日盛んなオリンピックの地、長野に昭和十一年に生まれた。私の出生時は、国策が大東亜共栄という帝国主義の日本であった。その後の歴史の趨勢は言うまでもないのだが、その結果私の家族は、北京からの引揚者として故国の地を踏んだのである。その時代に私を長男として、弟妹四人の大所帯を扶養する父の双肩にかかる責任

は重く、今日の私とは比較に及ばないほど辛かったことと思う。それでいて父は酒を絶やさなかったのである。角瓶のウイスキーを毎晩毎晩。

人は父の背を見て生きると言うが、私は父の生き方に逆らい、自らの誓いの銘として、アルコール依存症になるまいと青春時代に酒を断って生きたのである。母の理解を受ける過程で、高校は県立長野商業の定時制に進学し、昼はバイト、夜は勉学に励んだ。しかし卒業の年は世界的な不況で、いかんせん就職口はなく、途方に暮れていたが、その時親父が東京交通短大の願書を持ってきてくれた。そうして東京へ出るきっかけができ、上野に到着したときから社会人としての一歩が始まったのである。在学中は個人商店に勤め苦勞も多かったが、東武百貨店に就職することができた。外商部の課長として中間管理職まで勤めたが、酒が弱くアクシデントもあった。

真摯に生きる哲学が、母を裏切る結果となったこともある。俗に言う立身出世に目がくらみ、母が期待の地位を失い機会を逃すこともあったのである。これは酒の弱さが災いした結果である。「男は酒を飲んでも飲まれるな」と昔から言われてきたことが身にしてみた。

こうして五十七歳まで酒も飲まず一生

懸命働いてきたが、それでも人間は病氣にかかることがわかった。今から五年前の春、胃ガンを宣告される羽目となったのである。神も仏もあるものかと思った。それでも人間寿命と運があれば生命は保たれ、「先祖様の加護によることもわかった。そして東武百貨店も無事に定年を迎えることができて、ここから愈々第二の人生が始まることとなったのである。今後は健康のために仕事を選び、少々のボランティア活動も行い、趣味を楽しみ、妻と一緒に旅行等をして新たな人生のスタートをしたいと思っている。

(日本証券代行(株)勤務)

私と老人クラブ

第七回生 宮本 茂



東京交通短大を卒業して、早くも四〇年の年月が過ぎた。私も古希を迎え、高齢者の仲間入りをしている。

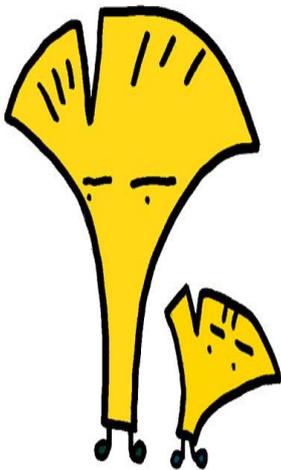
国鉄を定年退職して、最近まで第二の職場で働いていたが、今は自適の人生を送っている。

送っている。

町内の老人クラブから入会のすすめがあるが、入会はまだお断りしている。老人クラブというと地域の老人が集まってゲートボール、あるいはツアー旅行をしているイメージが一般的だ。しかし、今の高齢者は地域になじみの薄いサラリーマンOBが多くなっている。私もその一人で、高齢者の意識と生活様式が大きく様変わりしているのが現今である。せめて「老人」という呼称と、活動内容の両面が変化してほしいと思う。

私はこれからの高齢者は、美しい高齢者、または明るく社会に愛される高齢者として、地域社会で様々な活動ができることを願っている。

しかしこうして原稿を書いていても、またいくつになっても学園は懐かしいものである。東京交通短大の益々のご発展と卒業生、在校生の健康をお祈り申し上げます。



夢は大きく努力を重ねて！

第十三回生 川島 一郎



今から三十五年前、昭和三十八年夜間の昭和鉄道高校に通いつつ、国鉄東京鉄道管理局で雑務を行う、臨

時雇用員として働いていました。鉄道へのあこがれと、昭鉄の校章に惹かれて鉄道の道へ進み始めたばかりでした。この年は、新潟の豪雪で管理局からも連日雪かき要員が動員されたり、鶴見事故（走行中に脱線した貨物列車に横須賀線電車が突っ込み死傷者多数）発生などがあり暗い年でした。

翌年は東海道新幹線開業という明るい年で、私も東交大に入学し、国鉄職員になり、五反田駅や新鶴見操車場に勤めながら、週に三、四日だけしか通学できない勤労学生を続けました。当時は新幹線をはじめとして、技術導入の最先端にあり、ワイヤレスマイクを試験的に使用して珍しがられました。

国鉄は新幹線開業のこの年から赤字転落し、周辺技術の進歩も二〇数年停滞し

てしまいました。ワイヤレスマイクも列車無線等々の導入も私鉄に大きく遅れる結果となりましたが、JRになって急速に導入され、また技術革新もしています。

その後、貨物列車の車掌、および東海道線等の旅客列車の車掌業務を行い、昭和五十一年に東京南鉄道管理局へ転勤、人事課、運輸長室、地区指導センター、総務課、勤労課等で主に人事関係業務に携わりました。

平成七年春に、川崎駅長を拝命し着任しました。鉄道にあこがれて鉄道学校へ進んでから、三十五年目でした。この日は忘れもしない、東京でオウムサリン事件が発生した日で、朝から再発警戒、報道対応、社員の勤務操配などに追われ、とても喜べるような状態ではなく、三日徹夜に近い状態でした。以後、日々の安全輸送、主催団体の実施、お客様や市役所等の対応、社員育成等でほぼ順調な二年間でした。

昨年春に北斗星号、スーパーひたち号や、東北線、高崎線、常磐線の中距離電車を主に受け持つ上野車掌区長を拝命しました。駅とは異なる、車掌の事故防止、育成管理の業務を行っております。長距離列車が到着する度に「うえの、うえの」と余韻の残る駅のアナウンスが聞こえるJR東日本らしい職場です。

東交大を卒業してから、同窓会や年一回の特別講義を通し、後輩が鉄道に限らず社会に出て活躍できるよう声援を送っているつもりです。特にJR東日本に入社した後輩には年賀状を通して「東交大卒生・昭鉄卒生の誇りを持って頑張ろう！」の声援を送り、良い社員に社会人に育つことを願い期待もしております。
(JR東日本上野車掌区勤務)

写真館からの提案

第十四回生 林 明



いつも不思議に思うのですが、教養があり経済的に恵まれた方でも、人生の最後のお写真のお粗末な方がたくさんいらっしゃいます。縁起でもないと考え、ご家族も写真撮影のお勧めをしにくいのかもかもしれませんが、自分が亡くなった後、ピンぼけで気に入らない表情で不自然な服に着替えさせられて、何十年も飾られ続けるのかと思うと、私ならがっかりです。お気に入りのスーツ

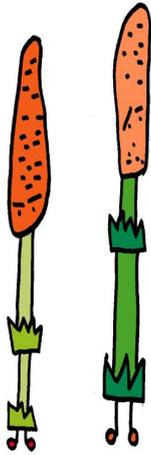
で、おしゃれをしたすてきな写真を飾ってもらいたいものです。

日本という経済大国は、写真文化においてある意味では大変遅れをとっており、非常に情けない思いがします。外国映画などでは、生活の中にたくさん愛情あふれる写真が飾られています。写真館だから言うわけではないのですが、骨董のショールームもできた現在、お写真にも、もう少しこだわってはいかが。

生前に、熟年ならではの生き生きとして輝き、また優しい笑顔の肖像写真を、応接間に飾るのはいかがでしょうか。高価な絵など飾るよりも、格調高くすてきなインテリアになると思います。

事前にスタジオでの打ち合わせも重要です。気分の良いとき、ゆっくり時間をかけてお撮りになることをお勧めします。どうぞ思い切ってお撮りください。お値段も、いくら高くてもせいぜい一泊の旅行代くらいですむのですから。

(林写真館)



今思うこと

第二十九回生 高橋 敦



東京交通短期大学を卒業して以来教科書と無縁だった私も、今はA4サイズの立法情報マニュアルを見ながら、慣れない手つきで覚えていきます。国会は衆議院、参議院ともにO A機械の投入を決めたために、私の職場でもコンピュータソフトを使いこなせるように、毎日若い職員と勉強するのですが、基本を学んである程度使いこなせるまでにはまだまだです。

日本の機械技術は大変進歩しました。しかし、日本は大変な不況です。銀行や証券会社などが次々と潰れていくニユースを見ていると、日本経済の行く末のよくなものが心配になってきます。それでも、北海道拓殖銀行や三洋証券のときくらいは、それほど深く考えていなかったのです。ところが、山一証券「会社解散」というニュースが流れ、そのニユースをワイドショーまでもが取り上げたとき、これは大変な事態になったという気

持ちになりました。

ワイドショーでは、山一の新人や社員の家族にインタビューして、「本当に、もうあまりにもショックで、これからどうすればいいのだろうか」「的なことを言わせていました。本当に気の毒です。もし自分がその場にいたらどうなっていたかと思うと。

私ははつきり言ってエリートでもなければ頭がいいわけでもありません。課長、上司、若い職員にも恵まれ、今の職場で楽しく仕事が出来るとも幸せです。不況が早く終わればと願いつつ、今後の国会を見つめていきたいと思っています。(衆議院事務局第一議員会館課勤務)

インターネット(その一)

第三十二回生 西形 伸次



インターネットがブームです。みなさんも <http://www.jp/>といった文字を新聞、雑誌、テレビ等で見たことがあると思います。

インターネットは世界中の情報に即座にアクセスできるという技術です。今後ますます進展いくでしょう。

アクセスメディアインターネット(株)が行なった日本国内のインターネット利用実態調査によると、九十七年末時点で利用者は八八四万人ということです。九十六年末が五一〇万人ですから、一年で三七四万人増加したことになります。九十八年も前年比約一六六%の成長が見込まれ、九十九年末には二、〇〇〇万人に達するといわれています。これは、企業需要や教育関連等の需要に支えられるためということですが。

そもそも、インターネットとは何でしょうか。英語ではInternetと記述され、TCP/IPという共通の通信プロトコル(通信上の規則)を利用したネットワークのことです。このネットワークに接続すれば基本的にどこでも通信できます。WWW、電子メール、ファイル転送、リモート接続などのサービスが利用可能となります。その起源は、一九六九年軍事目的として誕生したARPAnetが原形であり、その後CSNET、Internetへと発展しました。一つの回線が切断されても他の経路で目的地へ到達でき、また商用利用が可能になったことから爆発的に広がりました。

発展の要因として考えられるのは、最新の情報を即座に簡単に収集できることでしょう。それも世界中の情報を格安に入手出来るのです。今後、インターネット電話、インターネットテレビなど既存のメディアとの融合や、新しい技術との融合による新しいサービスの登場が大いに期待できます。その反面、知的所有権、不正アクセス、ウイルス、データ盗聴など様々な問題点もあります。

インターネットの代名詞ともいえるべきサービスにWWWがあります。これはWorld-Wide Webの略で、Web、W3と略することもあります。一九八九年にCERNのTim Berners-Leeによって提案された広域情報システムで、ハイパーテキストを介してインターネット/インターネットの資源にアクセスする情報検索システムです。WWWクライアントからURLを指定し、インターネット/インターネットの資源へアクセスすることができます。WWWサーバはhttp(HypertextTransferProtocol)というプロトコルを受け取ると、文字、画像、音声、動画等様々な情報を、企業、学校、地域、国等あらゆる場所へ送り出します。その特徴はなんといってもマルチメディアデータに対応していることでしょう。また、情報収集の時間と手間が省ける点

もメリットといえます。その反面、利用者のモラルが問われるようなことが起こったり、商用利用が増えてきたことによりセキュリティ対策が重要になってきました。

「WWWを知るためのキーワード」

- ・ハイパーテキスト(Hypertext)
- ・文字だけでなく、画像・動画・音声等マルチメディアデータも扱え、文章中に他のコンテンツへリンク設定ができます。
- ・HTML(Hypertext Markup Language)
- ・ハイパーテキストを記述するための言語
- ・URL(Uniform Resource Locator)

インターネット上の様々なリソースに、どのような方法でアクセスすれば良いかを記述する書式。

(情報処理学会勤務)



仲間

第四十二回生 一木宏和



私は九十七年に就職し、現在車掌へ向けて勉強している。そんな中でも、ときどき大学時代の仲間と会ったりしている。考えてみれば、交通短大は名の通り個々それぞれが同じような目的で入学してきた人が多い。だからこそ私は短大での仲間を大切に感じている。少人数であった大学は、学年が一つのクラスのようなものであったから、とても身近なところだった。

小学校、中学校、高校と皆それぞれの道を進んできたと思うが、自分にとって大学での生活は先程述べたようなことから、かけがえのない仲間を作る大切な場であった。大学に入るまでは、様々な夢や目的を持つ人たちとたくさん会ってきた。もちろんそうだった人たちとの交流も、とても大切なことである。しかし、短大で出会った人たちは同じ目的を持つという意味からも大切だった。

良き友を作ると言うことは、自分を成

長させるには必要不可欠だ、と言うことを感じている。それは何でも言い合える仲間がいると、本人が気がついていなかったことを客観的に見て気づかしてくれたり、不安なときは支えになったりしてくれるからである。

(JR東日本勤務)

人との大切な出会い

第四十三回生 増田佳子

私は今まで数多くの人と出逢ってきた。その人達との関わりの中で、喜び、悲しみ、多くの問題を解決してきたと思います。この人に会えたからこそ、こんな考え方ができるようになったと思えたら、それは人生の財産になります。私自身数々の人に助けられ、感謝している人がたくさんいます。そんな人々から先も巡り会いたいし、自分も成長していけるよう、努力したいと思えます。周りの状態、人は自分の鏡だと思えと良く言いますが、自分の気持ちの持ち

方で、人からの接し方も変わってくると思います。自分の持つているものに周りも合うものなので、常に自分を高めてあげなくては…。高めていくことでまた素晴らしい人々と出会っていきけるのだと思います。人と接する際、その人の良いところを見つけていきたいと思えます。今の自分は今まで会った人に感謝し、その人達の良いところを自分に取り入れられるよう、またこれから出会う人を楽しみに、周りの人を大切にしていこうと思っています。

前号(第二十一号)に掲載の「母校校舎増築への寄付お礼」記事のうち、第四回生大木美一様のお名前が抜けておりました、お詫びして訂正いたします。

また、卒業回不明で力ナ名のまま掲載した方は、第三十五回生片井庸光様、第三十七回生井村修二様、第三十九回生水藤明生様、中村彰宏様、第四十三回生福田政臣様と判明しました。

在校生特別寄稿

雑談

川崎 誠



みなさーん！お元気ですかぁー？もう私は絶好調です！みなさんにはもうおなじみだと思いますが「SP EED」っていうアイドル四人組を知っていますか？知らないとは言わせませんよ！

何てつたつて、デビュー当時の平均年齢は十三歳だつて言うんだからもう信じられないね、まったく。さらに驚くのが、彼女たちがデビューから一年での経済効果が約七十八億円らしいのよ！俺たちがいくらバイトしたつて、そりゃ無理だわ。

どうしてこの話をしているかというと、彼女たちは私にとって天使の女神だからなのだ！私はボーリング部のサークルをやっているんだけど、そこでバツク

会計報告書

平成9年4月1日

(平成8年4月1日～平成9年3月31日)

東京交通短期大学 同窓会

収入の部			支出の部		
項目	金額	摘要	項目	金額	摘要
繰越金	¥683,410		集会費	¥0	
会費	¥530,000	¥5000×106名	事務費	¥0	
臨時会費	¥0		通信費	¥430,673	会報20行発行及び郵便切手等
雑収入	¥490,840	校舎増築に伴うか委員会らのご寄付、利息	渉外費	¥550,857	
			会議費	¥2,700	会報発送作業
			雑費	¥1,519	セロテープ等消耗品
			予備費	¥0	
			繰越金	¥718,501	
収入計	¥1,704,250		支出計	¥1,704,250	

この報告書は検討の結果、その収支は正当かつ妥当であることを認めます。

平成9年4月1日 会計監査 堀 丈夫
村越 輝夫

ミュージックでSPEEDがかかってたりすると、たちまちストライクの確率が高くなるんですわ。イヤ、ほんとに。おまけに旅取の試験前に彼女たちの曲を聴いてから試験を受けたら、サエにサエちゃって、見事合格！なんて調子。これからも応援してるゾ、がんばれ、SPEED！

(一年次在学中)

私の価値観

黒沢 淳

東交大に入学し、はや1年が過ぎた。思えば昨年私は、運輸関係の職に就きたいと考え、「この学校しかない」と決心し一応(?)受験勉強をしていた。しかし、やはり交通関係の学校とはいえ、奥が深いと今考える。

列車の名称を車両番号で呼ぶ名人、電車会社でバイトをしている友人など、今までとは全く違うタイプの多くの友人と出会うことができた。世間では僕たちを「オタク」と呼ぶ人もいる。どのような考えからこう呼ぶのか計り知れぬが、僕はこの言葉を褒めことばとして受け取

る。何か一つをトコトンやり抜き、極め、人より秀でるといふことは、並みの努力や中途半端な興味では成し遂げることはできないのだから。
就職活動の際にも、今や「ゼネラリストより、スペシャリスト」の時代だ。僕も残り半分となった学校生活の中で、何か一つでも人より秀でているほどのものを作りたいと思う。

(一年次在学中)

これまでを振り返って

椎名 靖



早いもので、私が本校に入学して一年が過ぎようとしています。私は観光やサービスの勉強をするためにこの学校に入りましたが、ほとんどの生徒が鉄道会社を目指しているのには、正直いって驚きました。また、入学当初はほとんどの生徒が男子ということもあって、かなりのプレッシャーを感じていました。しかし、それも今となっては無く

なりました。

そもそも、私が本校を知ったのは高校一年生のとき、某深夜番組で、当時本校の生徒だった関根敏江さんを見たときでした。彼女の名札に本校の名前が書いてあり、それに興味を示した私は、早速高校の進路室で本校のデータを調べ、その後本校を受験し現在に至ります。

私が本校に入れたのは関根敏江さんのおかげと行って過言ではありません。

その彼女は現在ユーツーという本当に小さなプロダクションで芸能活動をしています。地味ながらもコツコツと努力している彼女に、私は心から感謝しています。

(一年次在学中)

二年間を振り返って

真弓 知子



女の人は少なかつたけれど、他の短大では味わえないようなことばかりの二年間、とても楽しかったです。楽しかったのだるどの人も、とても鉄道が好きなのだ

うと思つていましたが、思つていた以上に皆詳しい知識を持つているので、とても驚きました。従つて私も、この二年間でずいぶんと鉄道に興味を持つようになりました。そして東交祭で、生まれて初めて鉄道模型の凄さを知りました。何か奥深いものを感じました。

私が短大でとても好きだった場所は、屋上です。都会の中なのになぜかとても静かで、夜は星もちゃんと見えて、気持ちの良い場所でした。サンシャイン六〇も綺麗に見えました。

短大生活の二年間は、あつというままでした。しかし中身はぎつしりと詰まつていて、思い出もたくさんあります。私はこの二年間のことを一生忘れません。そして、ともに過ごした同級生の人たちも忘れないでいてほしいです。

(二年次在学中)

原稿執筆案内

一、文章の場合

原稿用紙(市販品で可)またはフロッピーディスク(Windows, Macintoshどちらでも可、テキストファイル形式のもの)にて、六〇〇字程度でお願いしま

す。

二、イラスト、カットの場合

ハガキまたはハガキと同等な用紙に書いてください。そのまま版下としますの
で、きれいに作成してください。

いずれも左記宛に、毎年一月末日まで
にお送りください。

〒一七〇 〇〇一一

東京都豊島区池袋本町二丁目九番一号

東京交通短期大学 同窓会事務局

電話 〇三(三九七一)四七〇四

ファックス 〇三(五九五二)一八九〇

編集後記

今年は新年早々から大雪が続き、みなさん通勤・通学に苦労されたことと思
います。そんな時期、ふと新聞を見ると、
左のような記事が目にとまりました。

『首都圏の大雪で京王帝都電鉄が名を揚
げた。JR中央線、小田急電鉄線が相次
いでダウンした八日夜、新宿駅以西の乗
客にとっては、京王線がただ一つの頼み
綱だった。』

両線から回ってきた客をさばくため夜に
臨時電車を二本増発。中央線方面へのバ

ス路線がある途中駅では、バスの臨時便
も次々出した。これはタクシー待ちの長
蛇の列がなくなるまで続けたという。

雪に強かったのは決して偶然ではな
い。電車が立ち往生する原因はパンタグ
ラフへの着雪とポイントの凍結。鉄道部
門の全社員の八人に一人にあたる三〇〇
人を緊急に動員してこれを防いだ。

カンテラに代わるポイントの電気溶雪
機の導入率が、七、八%という私鉄が珍
しくないなか京王は一〇〇%。パンタグ
ラフには、十二月に入ったら、そのすべ
てに着雪防止剤を塗るといふから、日頃
の備えも十分だ。

昨年末、関東の私鉄が一斉に値上げし
たが、京王は値下げに踏み切った。輸送
力増強工事のために上乘せしていた分を、
工事が完了したから利用者に返すといふ。
この潔さには多くの人がうなづいた。

あの夜も、雪煙を上げて力強く走る電
車に「京王はやるなあ」と声をあげる客
が何人もいた。本当のサービスとは何が、
あらためて知らされた一夜だった。

(平成十年一月十八日付読売新聞朝刊よ
り)『

どんな環境でも走って当たり前が常識
の中、交通短大OBとして業界に勤務さ
れている方々ご苦労様です。

(編集委員N)